

グッドネーバーズ・ジャパン
年次報告書
2011
2011.1-2011.12



ごあいさつ

この度、2012 年度総会におきまして全理事のご賛同のもと、グッドネーバーズ・ジャパン代表理事のご指名を受けさせて戴きました福井玲と申します。

本団体は、韓国で設立され世界 29 カ国で活動している国際 NGO グッドネーバーズの日本法人として 2004 年に設立され、日本を含む 9 ヶ国で子どもの教育支援を中心とした地域開発や災害時の緊急支援を実施しています。

2011 年 3 月 11 日の大地震の後、私自身も大学で教鞭をとる傍ら、4 月から 6 月にかけてグッドネーバーズ・ジャパンの駐在スタッフと一緒に岩手県の臨時事務所に寝泊まりし、被災地の幼稚園・保育園を訪問し、被災された方々の生の声を聞きながら、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を軽減する事業の下地作りや、緊急支援物資の配布活動を進めてまいりました。

ご存じのとおり現地には、国内はもちろん世界各国からのご寄付や物資支援、温かいメッセージ、そして多くのボランティアが集まり、2011 年日本は世界一の被支援国となりました。また、2011 年は震災の他にも東アフリカで 60 年に一度と言われた干ばつ、タイの洪水など、多くの自然災害に見舞われた年でした。

このような災害だけではなく、いまだに世界には、飢餓や貧困といった、日本では考えられない不条理な状況が存在しています。

私達が展開している、教育、医療・保健衛生、職業訓練、農業開発やエンパワメントといった支援活動は、子どもと子どもを取り巻く地域住民の生活環境の改善を目的とし、子どもに焦点を当てた活動が中心です。なぜなら子どもは国の未来・国の基礎であり、子どもがどのような教育を受け、どのような環境で成長するかでその国の未来が変わるからです。

- 飢餓のない世界を実現すること。
- 予防できる病気で命を落とすことのない世界を実現すること。
- すべての人々が、どんな理由であれ、差別されたり疎外されたりすることなく、尊厳をもち安心して暮らせる社会を実現すること。

グッドネーバーズ・ジャパンはこの目標を達成するために、情報を日本の皆様に発信して一人でも多くの方に継続的なご支援をお願いすると共に、国際協力事業にご賛同頂ける企業・法人の皆様と協働し途上国の子ども達を取り巻く環境を改善していきたいと思っています。

震災をきっかけに寄付やボランティアなど、グッドネーバーズ・ジャパンを支援して下さる国内の参加者も飛躍的に増加しました。皆様のご支援による世界中の様々な地域開発事業が広がりを見せている中、私達は、活動の状況・課題・成果などの説明責任を今まで以上に果たしていかなければならないと感じております。

その責任の一つのかたちとして、また、心からの感謝を込め、継続的にご支援下さっている皆様にも一年間の活動の成果として「年次報告書」を作成しました。どうか、皆様のご支援の成果をご確認いただき、今後とも継続的なご関心・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



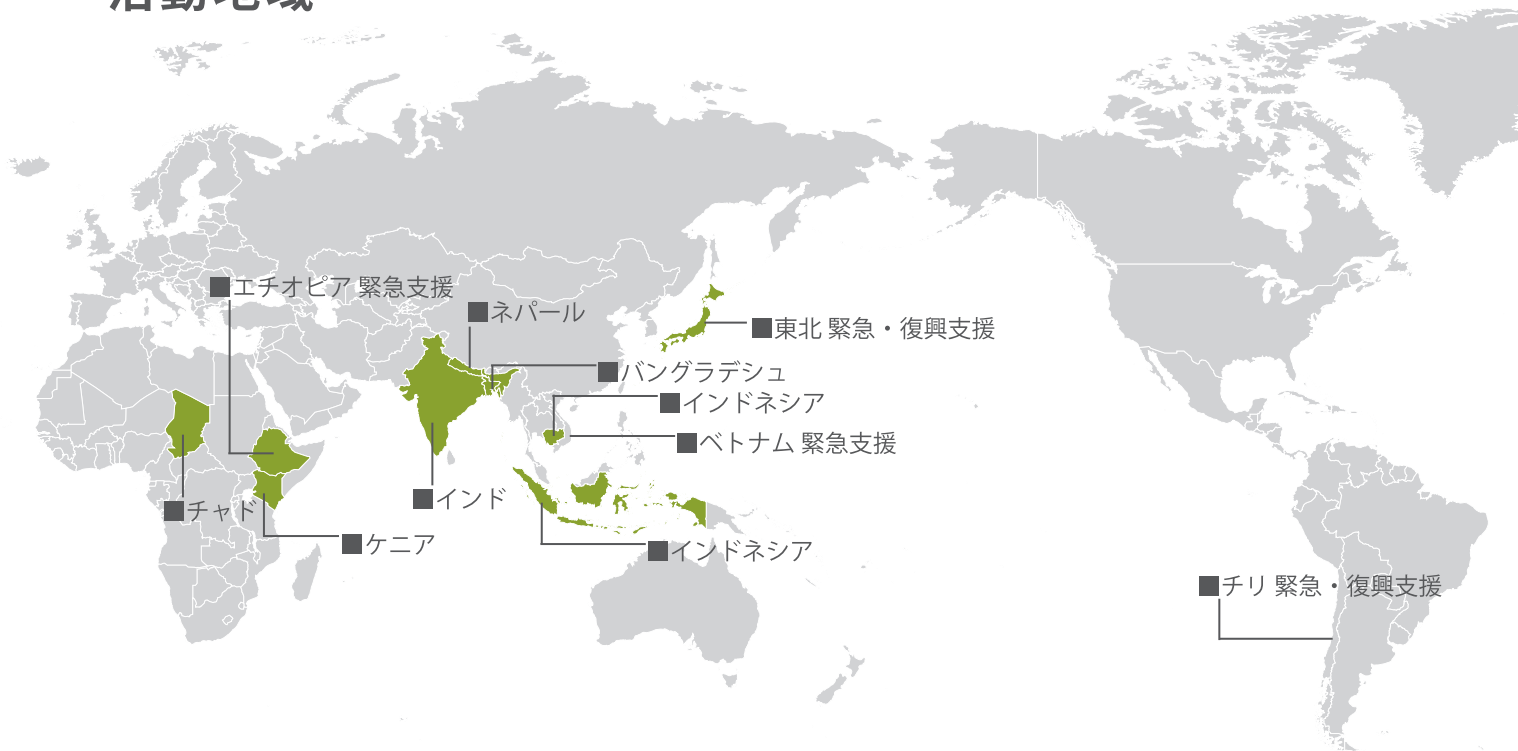
福井玲

グッドネーバーズ・ジャパン代表理事
東京大学准教授

目次

- 2 ごあいさつ
- 3 目次 / 活動地域
- 4 東日本大震災における活動
- 6 海外のコミュニティー開発事業
- 22 海外の緊急支援活動
- 24 広報・啓発活動
- 26 会計報告
- 27 組織概要・役員一覧

活動地域



■ グッドネーバース・ジャパンの支援国
■ 緊急支援は 2011 年度に実施した地域を表記

2011 東北支援活動報告

こんにちは

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、東日本大震災の発生直後から、岩手県大槌町・釜石市・山田町などで、緊急支援物資の配布のほか、心のケア、漁業支援、ボランティア派遣など、様々な活動をしてまいりました。そして、今でも多くの支援者様、企業、ボランティアの皆様、そして被災地の皆様にも支えられ必要に応じた支援を継続しています。

震災後1年半が経ち、今は被災者の方々それぞれ求める物が違いますが、未だ被災地への支援は必要です。日に日に出し辛くなっている被災された方の声を少しでも多く拾いだし、「支援したい」と手を挙げてくださる方々と、どうマッチングさせ繋げていくか、それが私たちの今の仕事です。

私が今後仕事を続けていく上で、いつも心に留めておかなければいけないと思っている事、それは「ありがとう」の気持ちを忘れない事です。支援をして下さる方、被災者の皆さんの「ありがとう」の気持ちを繋げ、人の輪を広げてより速い「復興」へのお手伝いができたらと思います。

GNJP は 2012 年も被災地での活動を続けていきます。今後も皆様からの温かいご支援、ご声援を頂ければ幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

グッドネーバース・ジャパン
震災復興支援部 部長 武鐘史恵



グッドネーバース・ジャパン復興支援部一同

■活動地域
(岩手県)



◆CHILD STORY◆ おおちゃん

「おおちゃん」※は大槌町に住んでいる幼稚園生の女の子です。

2011年3月11日。地震と津波、さらに火災まで経験したおおちゃんは震災後、ママの側を離れられず、幼稚園にも通えなくなりました。

おおちゃんが、避難先で知り合った優しい自衛隊のお兄さんが大好きで、北海道に帰ってしまったので寂しがっている、ということを知ったグッドネーバースのスタッフは、その自衛隊さんを探してあげたいと思いました。手元にある情報は、「北海道から来た陸上自衛隊の隊員」のみでしたが、大槌町に残っていた隊員さんに相談し、800名以上の「大槌町に派遣された自衛隊員」の中から「おおちゃんの自衛隊さん」を見つけることができました。

その後おおちゃんは少しずつ幼稚園にも行けるようになり、ある日、大好きな自衛隊さんとDVDメッセージを通じて再会することができました。画面に向かって優しく「僕たち自衛隊のおじちゃん達は、おおちゃんのお顔が見たいです」と語りかける隊員さんの笑顔をおおちゃんは何度も繰り返し観ていました。

※「おおちゃん (仮名)」は大槌町のマスコットキャラクター「おおちゃん」から名づけました。



大好きな隊員さんの
写真を撮るおおちゃん



緊急支援物資配布

グッドネーバース・ジャパンは震災直後に緊急支援を決定し、3月16日から4月22日の間に、岩手県の釜石市、大槌町、山田町の避難所や幼稚園にて以下の緊急支援物資を配布しました。
・衣料品 (3,311 着)・毛布 (1,000 枚)・Tシャツ (327 枚)・マスク (4,660 枚)・水筒 (1,500 個)
・下着 (24,786 枚)・歯ブラシ (200 本)・靴下 (470 足)・生理用品 (7,200 袋)・スナック菓子 (300 個)・食品缶詰め (300 個)・児童用文具類、その他医薬品、携帯用ガス、水など



仮設シャワーブース設置

4月から10月まで、釜石市、遠野市、大槌町の各避難所や仮設住宅、ボランティアセンターなどで計20基の仮設シャワーを設置、運営しました。このシャワーブースは3月から10月まで被災者の方々やボランティアさんに提供され、避難所閉鎖に伴い随時終了、一部供与されました。



鮭のふるさと 大槌川再生清掃プロジェクト

6月から11月まで大槌町ボランティアセンターと協力し、鮭が遡上することで有名な大槌町の河川清掃プロジェクトを実施しました。企業ボランティアの他、東京発のボランティアバス(計10回)には全国各地から延べ360名のボランティアが参加し、大槌川や小槌川の瓦礫やヘドロを撤去しました。大槌町の河川では、9月から鮭の遡上が確認され、ある日スタッフが魚のイラストに「ありがとう」と書かれたポスターが河川敷に貼られているのを発見して制作者を捜したところ、近くに住むデザイナーの方がボランティアの方への感謝を込め、作ったものと言うことでした。



心のケアプロジェクト

5月から臨床心理士の先生の協力のもと、保護者の方々と保育園・幼稚園の先生方を対象に被災した子ども達の「心のケアプロジェクト」を実施してきました。ワークショップでは、ストレッチなどのリラクゼーションの後、保育に関する相談を受けたり震災後のストレス反応の話をしてもらっています。このプロジェクトは2012年も引き続き行っています。



仮設住宅カフェ「kissANA (キッサーナ)」

9月から数回にわたり、ANA(全日本空輸株式会社)グループ労組連合会と大槌町ボランティアセンターと共催し、「KissANA」というカフェイベントを開催しました。

これは、仮設住宅で孤独を感じやすい住民のために、入居者同士のつながりを深めてもらえる場を提供することが目的でした。当日は現役の客室乗務員等がボランティアで、機内で提供している飲料をサービスしたり、地元の食材を使ったバーベキューを提供したりしました。



漁業再開支援プロジェクト

大槌町の主力産業である鮭漁は、例年遡上シーズンの10月から1月にかけて行われますが、津波で漁に必要なものがすべて流されてしまいました。そこで大槌町経済の生命線ともいえる鮭漁再開のため、8月から漁業再開支援として仮番屋(鮭漁に必須の食堂・仮眠室・シャワー・事務所等を備えた施設)建設のほか、数か所で作業場や事務所の建設、また機材の支援をしました。 ※このプロジェクトは、ジャパン・プラットフォームの助成を受け実施しました。



ガードレール設置プロジェクト

大槌町には現在、約50の地域に計2,106戸の仮設住宅があり、4,726人が暮らしています。仮設住宅群へ入る道路は、もとは農道だった土や砂利の道で道幅も狭く、既に車の脱輪や高齢者の転倒といった事故が数件起こっており、いつ大きな事故が起きてもおかしくない状態でした。一刻も早くガードレールを設置してほしい、という住民からの要望を受け、2011年の12月からガードレール募金を募りました。その結果、総額120万円以上もの資金を集めることができ、大槌町役場(地域整備課)と連携して2012年の4月に大槌町の褒岩(ほろいわ)地区、6月に生井沢(なまいさわ)地区にてガードレールを設置しました。

2011 カンボジア活動報告

ハロ! (こんにちは!)

カンボジアの子ども達と家族を支援して下さったサポーターの皆様へ感謝します。長期にわたったポル・ポト政権の支配下において、カンボジアは内戦や大量虐殺などの悲劇を経験し、その中で社会的、経済的基盤が崩壊しました。近年は経済的にも成長している一方、地方は取り残されたまま国内の格差は広がる一方です。いまだに村には電気や水道がなく、学校に行けない子どもの割合も都会と比べて高く、まだまだ国際社会からの支援を必要としています。

2011年には3,000人の子どもと、11,000人の地域住民にグッドネーバーズの支援を届けることができました。2012年には政府とボランティアとして地域とのパートナーシップのもと、4,600人の子どもと14,000人の地域住民のために教育支援・トイレ建設などの保健衛生支援、収入向上支援などのプログラムを計画しています。これからも引き続き、ご支援宜しくお願いします。

オークンチュンラン! (ありがとうございます!)



グッドネーバーズ・カンボジアスタッフ一同

グッドネーバーズ・カンボジア
事務局長 ソン・スジン



活動地域



ハートがいっぱい



給食支援

グッドネーバース・カンボジアはベンモン地域のプレーヴ小学校で全校生徒に給食を提供しています。給食支援が始まる前は、メイ・パニちゃんは家が学校から遠いため、お昼ご飯を食べるために授業が終わる前に下校しなければならず、学校の勉強についていくのがとても大変でした。またメイちゃんの母親は日雇い労働者として朝から夕方まで外で働いていますが、食べ物も充分ではありませんでした。

給食支援が始まってから、メイちゃんは以前より健康になり、勉強にも集中できるようになりました。安全な教室と美味しい給食、遊具もあり学校がとても楽しみになったそうで、最近では欠席することもなくなりました。メイちゃんの母親も子どもの心配が減り、安心して仕事に行けるようになりました。



トイレ建設

コントレイ地域では保健衛生支援事業としてトイレ建設を行っています。

キ・ファラさんの家にはトイレがなく家族は森の中まで歩いて行ってトイレを済ませていました。これは衛生面でも治安面でも良くない上に、環境汚染の原因でもありました。

現在はグッドネーバースのプログラムを通じて彼の家にトイレが建設されたため、女の子も安心して一人でトイレに行けるようになりました。キ・ファラさんは「生活環境を汚すこともなくなった。」と喜んでいます。



農業技術研修

シ・レクさんはグッドネーバースの農業開発事業により野菜栽培技術研修や肥料の支援を受けました。これにより彼女は今までの栽培方法に問題があったことに気づき、習った技術で野菜を栽培し、生産量を増やすことに成功しました。

現在、彼女は家族で食べる分のほかに、市場で売ることができるほどの十分な野菜を収穫しています。彼女はこの技術研修に感謝し、コミュニティの人々にも教えたいと話してくれました。



子どもの権利キャンペーン

コントレイ地域では子どもの権利向上キャンペーンを実施しました。2011年7月1日に実施したイベントでは、子どもの権利に関する講演会のほか、絵や歌のコンテストがありました。この講演会では子どもには教育を受ける権利、暴力から保護される権利、地域活動に参加する権利などがあることが伝えられました。

イベントに参加したバンティ・メンチェイちゃんは「子どもにそのような権利があることをはじめて知りました。また絵のコンテストで3位に入賞したのでとてもうれしかったです。来年もこのイベントに参加したいです。」と感想を話してくれました。



地域ボランティア

グッドネーバースは地域の住民を巻き込み、人々の意見を取り入れた参加型の地域開発を目指しています。

2010年からコントレイ地域でボランティアをしているバンティ・ミンチェイさんは、グッドネーバースと共に家の修理、トイレ建設、プログラムの進展状況のチェック、会議やワークショップのお手伝いなど様々な活動に積極的に参加してくれました。彼は「コミュニティのために働く機会ができてとても嬉しい。これからも地域の発展のためにグッドネーバースのボランティアとして貢献していきたいです。」と抱負を語ってくれました。

2011 インドネシア活動報告

ハロ！（こんにちは！）

いつもインドネシアの子どもたちと家族を支援して下さいありがとうございます。
インドネシアは世界最多の約 18,000 以上もの島々から構成される国です。人口は約 2.4 億人、300 以上もの民族があり、多様な言葉が話されています。また、近年の経済成長を遂げる一方、高い貧困率や自然災害など様々な問題も抱えています。

2011 年、グッドネーバース・インドネシアには多くの変化がありました。地元での資金調達や、皆様からのご支援金により、地域開発委員会を開催し、各地域で子どもたちの事例管理を始めました。また、インドネシア全国にある 100 校以上の小学校で子どもの権利教育を始めることができました。収入向上支援事業も実を結び始めており、職業訓練を行っている地域では現在、彼らが作った商品を販売する準備ができています。

皆様からのご支援、スタッフやボランティアの協力、地域住民の参加なしにはこのような成果は得られませんでした。改めて皆様のこれまでのご支援に感謝し、今後の継続的なご支援、ご関心をお寄せいただきますようお願い致します。

トゥリマカシ！（ありがとうございます！）

グッドネーバース・インドネシア
事務局長 パク・ドンチョル



グッドネーバース・インドネシアスタッフ一同

活動地域



笑顔で登校



図書室開館

メダン地域のベラワン・メダン小学校の5年生、グロリア・ミハワちゃんはグッドネーバーズ・インドネシアが運営している子どもセンターで英語を勉強しています。この英語教室では150人の子どもが勉強しています。

2011年9月にグッドネーバーズはこの子どもセンターに、きれいなカーペットと、ペンキでカラフルに塗装された2つの本棚、120冊の本がある図書室を作りました。科学の本が大好きなグロリアちゃんはこの図書室ができた事でとても喜び、「私が住んでいる地域では、学校にすら図書館がなく、私は本を読むのが大好きだから、ずっと図書館ができるのを待っていたの。私はおとぎ話や科学の本を読んで、地球の事を想像するのが好き。ここでいろいろな本を読んでこの前クラスの科学のテストで1位になったの。」と話してくれました。



水の供給

スカブミ地域に住んでいるユリアンティちゃん(11歳)の村では、きれいな水を手に入れるのがとても大変でした。雨季は雨水を溜めて使い、乾季がきたら村から4kmも離れた川や井戸まで水を汲みに行かなくてはなりませんでした。

グッドネーバーズは2011年10月から11月にかけて、生活に不可欠な安全な水の供給のためにスカブミ地域の自治体と協働で水のパイプラインを作りました。この工事により4つの給水塔が作られ、民家とつながるパイプラインが設置されました。これでユリアンティちゃんは水を汲むために何時間も長い距離を歩くこともなくなりました。



キャッサバ※・チップスで収入向上支援

ヤンティ・サリニンシさんはスカブミ地域に住んでいる学校の先生です。ヤンティさんは計30人の村々と共にキャッサバ・チップスの生産技術研修プログラムに参加しました。研修は二日間で8時間ずつ行われ、実務の基礎、チップスとパッケージを作る方法、製品の販売方法などを勉強しました。その後専門家による実務研修が行われ、チョコレート、チーズ、バーベキュー、チリなどの様々な味のキャッサバ・チップスを作ることができるようになりました。訓練後の3カ月間は、問題があった場合の専門家によるフォローアップにも対応し、このチップスは地元の人々からも好評を得ました。

ヤンティさんは「私たちは今までこのような収入が得られるとは思いませんでした。今私たちは、一日に50kgのキャッサバ・チップスを生産しています。この事業により、地域の収入が増え、失業率を減らすことができました。」と喜んでいました。

※キャッサバ: 熱帯低木の種類。地下にサツマイモに似たイモができる。



子どもの権利教育

メンタン地域には、子ども権利センターがあり、子どもの権利教育に力を注いでいます。メンタンは首都ジャカルタに近いため、ジャカルタにある学校にも子どもの権利教育を呼びかけています。

2011年には6つの小学校(12クラス、生徒数475人)に子どもの権利教育を実施し、教材を提供したほか、アンケートにより子どもたちの理解度を図りました。子どもたちは自らの権利を知り、先生たちも熱心に参加してくれました。多くの学校が子ども権利教育をカリキュラムの一部として受け入れることに合意したため、今後グッドネーバーズは希望する学校に資料と教育を提供していきます。



2011 バングラデシュ活動報告

バロ アチェン? (お元気ですか?)

バングラデシュは 1947 年に東パキスタンとしてインドから独立後、1971 年にはバングラデシュとして独立しました。日本の約 4 割の国土に、1 億 4,232 万人が住んでいます。

グッドネーバース・バングラデシュ (GNB) は 1996 年に事業を開始し、現在 11 地域で 11,412 人の子どもを支援しています。

2011 年には、医療・保健衛生事業とともに、幼稚園・小学校・中学校での教育支援を実施し、支援対象地域において 95% の就学率を達成しました。ガタイル・グルシヤン・ミルプール地域にあるグッドネーバースが運営する学校のほか 72 校の公立学校をサポートし、これらの学校で働く教師の訓練にも力を入れてきました。また、職業訓練事業として 4 地域で実施したパソコン研修では、645 人の生徒が卒業しました。

これまで GNB は「初等教育の達成」を目標としてきましたが、その目標の達成に近づきつつあり、今後は中等教育へ目標を拡大したいと考えています。さらに、より支援を必要とする人々に支援を届けるため、支援対象家庭の収入の再調査など子どもサポーター事業の改善にも努める所存です。

2012 年も、変わらぬ継続的なご支援をお願い致します。

ドンノバット! (ありがとうございます!)

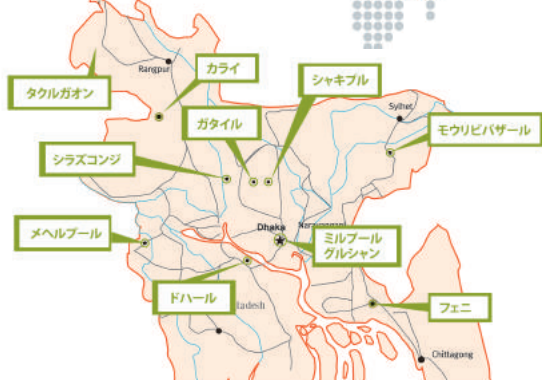
グッドネーバース・バングラデシュ
事務局長 イ・スンヒョン



グッドネーバース・バングラデシュスタッフ一同



活動地域





井戸の設置

タクルガオン地域に住むスロヴィちゃんの家には井戸がなく、遠い所から水を運んでいました。不衛生な水を使い、病気に罹った事もありました。

グッドネーブーズはこの地域の井戸の分布とニーズ調査をし、スロヴィちゃんの家近くに井戸を設置しました。彼らは、安全な水を得られるようになり、水を運ぶ時間も短縮されました。近所の人々もその井戸を使っており、今後は地域住民が井戸を管理し、常にきれいな水を保持するよう努めます。



トイレの設置

タポシュ君はタクルガオン地域に住む、勉強をしっかりと頑張る男の子です。以前は家にトイレがなく、近くの畑の適当な場所を使っていました。周辺の衛生環境は劣悪で、寄生虫、下痢、腹痛に苦しむこともありました。

タクルガオンプロジェクトでは、彼の家にトイレを設置しました。その結果、トイレを使うようになっただけでなく、健康・衛生への意識も向上しました。タポシュ君は「トイレの後はちゃんと水で流し、石けんで手を洗うよ」と言い、彼の母親は近所の人々にもトイレを使うように薦めているそうです。



シラズコンジ地域医療プロジェクト ※今井記念海外協力基金の助成により実施

シラズコンジ地域は首都から車で3時間のところにある農村地域で、病院は村から遠く、治療費も高いので人々はよほどのことがない限り行けません。そのため、症状が重くなってから病院に行き、さらに治療費が高くなるという悪循環が起きていました。

そこでグッドネーブーズ・ジャパン (GNJP) は、診療所を同地域に設置し、医師と看護師を雇い、緊急時でも対応できるようにしました。農村地域は、人が少なく診療所を開いても儲からないため、医師などのエリートは診療所を開こうとはしませんが、今回このプロジェクトを引き受けてくれた医師は、同地域の近くに奥さんと診療所を経営しており、奥さんと交代でならシラズコンジでも診察できるということで、このプロジェクトが実現しました。GNJP はこの医師と、同地域に住む子どもと保護者を集め食事の栄養指導をした後、子どもたちに栄養失調を防ぐシロップを配りました。



◆CHILD STORY◆ シュミ・アクテルちゃん 11 歳

シュミちゃんは、グッドネーブーズ・バングラデシュ (以下 GNB) の児童養護施設で最も明るくて、賢い女の子の一人です。

二年前、彼女は毎朝市場で花を買い、路上で信号待ちのドライバーに売っていました。彼女の毎日の収入 150-200 タカ (160 円前後) は母親に渡していました。父親は亡くなっており、彼女と障害のある姉を育ててくれた母親は結核を病んでいたため、彼女がお金を稼がなければならず、学校には行っていませんでした。



二年前の花売りの頃

ある日、GNB のスタッフが公園で花を売っていたシュミちゃんを見つけました。GNB は彼女の家族と話し、子どもの保護や基本的な権利、児童養護施設の必要性と重要性について説明し、理解を得ました。

その後養護施設での生活を始めた彼女は、「私の人生は想像もできなかったぐらい完全に変わりました」と語り、今の生活全てを楽しんでいます。

今彼女は無償の教育、栄養のある食事、衛生的な環境、友達と遊ぶ時間、安全で明るい未来への希望を手に入れました。

今彼女は一時は忘れていた、看護師になるという夢を抱いています。



現在は学校に行ってます

2011 インド活動報告

ナマステ (こんにちは)

インドは近年、高い経済成長率を維持してきましたが、裕福な人々が増えている一方、人口の約35%が極度の貧困状態にあると言われています。インドでは現在、経済成長の恩恵が及ばない貧困層を対象にした国際協力が求められています。

2011年は皆様のご支援により、グッドネーバーズ・インドには多くの良い変化がありました。4,500人の子ども達への様々な教育支援や、子ども達の家族を対象とした人権教育を実施しました。また、地方政府との連携事業である「労働者住居登録事業」に参加し、インドの地方政府の民間パートナーとして位置付けられました。

2012年も子どもの教育支援と保護者への教育を通じて、就学率と登校率の向上に努めていきたいと思います。そして地域住民のための収入向上支援、職業訓練、農業開発を実施する予定です。

インドの子ども達をご支援くださった皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も一生懸命インドの地域開発のため努力することをお約束します。

ナンドゥリ! (ありがとうございます!)

グッドネーバーズ・インド
事務局長 アン・スンジン



グッドネーバーズ・インドスタッフ一同

活動地域



大好きな友達と



収入向上支援事業

ムドゥマライ地域では今年、20 世帯の農家を対象に農地開発や種子の支援、技術研修を通して、豆や花卉栽培の農業開発支援を実施しました。この事業は大成功を収め、投資した金額の3倍もの利益を得て、農家に分配することができました。参加したカナガイさんは「降雨量が少ないムドゥマライで2回も連続して収穫に成功するなんてまだ信じられない。グッドネーブーズの支援で農業技術を学べたからです。」と話してくれました。今後は農業開発センターを建て、農器具の貸出や農業教育など、事業を拡大していく予定です。



以前の井戸

住民による井戸の管理

チクジャラ地域の唯一の水源である井戸は、古くて誰にも管理されていなかったため、井戸水は下痢や感染症など様々な病気の原因になっていました。そのため、2010年に井戸に壁と蓋をつける工事を行いました。その結果、水因性感染症の発生は大幅に減りましたが、井戸を綺麗に維持しなければならないという課題が残っていました。

現在はチクジャラ地域に住むジャヤンマさん(52歳)を中心に村人20人が井戸管理ボランティアを組織し、毎月1回井戸の掃除をするなど施設の管理をしています。チクジャラでは井戸の管理だけではなく、様々な地域開発事業にも住民の積極的な参加を促しています。



子どもの権利教育

ディビヤシュイリちゃん(12歳)はグッドネーブーズが作った子ども委員会の委員長で、バンガロール市の労働者集団居住区に住んでいます。この地域では、子どもたちが学校に通わずに家事を手伝うなど親と一緒に働くことが少なくありません。

ディビヤシュイリちゃんは、これが子どもの権利を侵害しているという事実を委員会の先生から学びました。その後、彼女は子どもを学校に行かせるというキャンペーンに積極的に参加し、2011年の11月には委員会の代表として州知事も招待された児童総会で、児童労働をしている友達を助けるようにと訴えました。彼女は「何よりも、子どもの環境の変化の主体が大人たちではなく、子ども達であることが分かりました」と話してくれました。

◆CHILD STORY◆ マリヤパ君 12歳

こんにちは。僕の名前はマリヤパ(12歳)です。

現在公立小学校の6年生で、グッドネーブーズから支援を受けています。僕は2年前、お母さんと一緒に田舎から建築労働者が多く住んでいるバンガロールの町に引っ越してきました。お父さんは既に再婚し、金銭的な支援はありません。

ある時から左耳に腫瘍ができ、大きくなって、僕は学校の友達からからかわれるのが嫌で1年前から学校に行くのをやめました。グッドネーブーズのカウンセラーの先生がお母さんに手術を勧めてくれましたが、手術費がなくそのまま放置するしかありませんでした。そのうち腫瘍はもっと大きくなってきて出かけるのも怖くなりました。

しかしある日、医療福祉の先生が無料で手術をしてくれる病院を探してくれ、2011年6月に無事、手術を受けることができました。さらに栄養失調だった僕は、お医者さんからの勧めもあり、体を回復させるために約1カ月間デイケアセンターで栄養のある食事を食べることができました。今は学校へ行くのが楽しみで、支援して下さったサポーターの皆さんに本当に感謝しています。



手術前の腫瘍



手術成功後の笑顔

2011 ネパール活動報告

ナマステ (こんにちは)

ネパールは人口の73%が一日2ドル以下の収入で生活している最貧国の一つです。北海道の約1.8倍とそれほど大きくない国土ながら30を超える多民族からなる国家で、カーストと呼ばれる階級制度が残っています。

グッドネーバーズ・ネパールは、子ども達を対象とした、教育、保健衛生、保育等の活動を中心に、家族を対象とした収入向上活動支援も行っています。また、コミュニティーに対して農業開発、用水路設置、学校や図書館の建設支援を行っています。

2011年は、これらのプロジェクトを通じて約11,000人の子ども達と約2,550人の農民を支援しました。継続的な活動により、学校の教育の質が向上し、学校へ通える子ども達の数も増えました。皆様からのご支援なしにこれらの成果は成し得ないものであり、サポーターの皆様に深く感謝申し上げます。ご支援と共に、地域住民のプロジェクトへ参加も増え、その結果地元の人々がそれぞれのコミュニティーの地域開発へと貢献しています。

改めて皆様のご支援に感謝します。今後も継続的なご支援をお願い致します。

ダンニャバード(ありがとうございます!)

グッドネーバーズ・ネパール
事務局長 コ・ソソフン



活動地域



ネパールの子ども



教育支援

サングラ地域の中等学校に通うマリチ・タマン君(19歳)は、父親が亡くなってから日雇いの仕事で家計を支えていました。しかし食糧を買うのが精一杯で彼と2人の弟は学校へは通えませんでした。

グッドネーバーズはマリチ君と弟たちに宿泊所を提供し、教科書、文房具、学校制服など学校でかかるその他の費用も支援し学校に行けるようにしました。これによって彼はスポーツ、歌、絵画などの課外活動にも参加できるようになり、歌のコンクールでは受賞しました。

マリチ君は「グッドネーバーズの支援がなければ、児童労働者となっていたと思います。それ以外に生き延びる道はありませんでしたから。私達の地域にグッドネーバーズは光をもたらしてくれました」と話してくれました。



手術支援

グッドネーバーズは、医療・保健衛生支援として、地球や学校で健康診断を実施し、必要と思われる場合は手術などの治療も支援しています。

カイラリ地域の小学生ミナ・ネパリちゃん(12歳)は2011年10月、木から落ちて右手を骨折してしまいました。骨が外に飛び出して出血も止まらず、命にかかわる危険な状況でしたが、両親はお金がなく手術ができませんでした。グッドネーバーズはミナちゃんの手術費と入院費を支援し、治るまでケアしました。



ムグ地域のハンサ・バドゥワルさん(50歳)には、随分前から左目の下の頬の中に腫瘍がありました。地元の病院で検査しましたが、その病院では手術はできないと言われました。しかし、遠くの町まで行って治療を受けるようなお金はありません。そのような中、グッドネーバーズが同地域で移動診療を実施した時、ハンサさんも診療を受けました。医療器具がなく、その場での治療はできませんでしたが、その後手術を受けることができ腫瘍は取り除かれました。彼は「腫瘍を取り除くことができ、非常に嬉しい。なんだか自分がハンサムになった気がします。グッドネーバーズに非常に感謝しています。」と話してくれました。



バイオ砂濾過装置の設置

カイラリ地域には水源にヒ素汚染の危険があったため、ラストリア高等中学校にバイオ砂濾過装置を設置し、使用方法のオリエンテーションも行いました。ヒ素汚染された水を長期間飲むと、体に発疹ができたり、貧血や癌のリスクも高くなります。また雨季は水が汚染され易く、生徒達の多くは水因性感染症に苦しんでおり、学校を休む生徒も多くいました。バイオ砂濾過装置の設置により生徒も先生も汚染水やヒ素の危険から解放され、安全な水を利用できるようになったおかげで最近水因性感染症に罹る生徒が減りました。



エンパワメント

グッドネーバーズは、地域の人々が市民活動の場をつくり、社会の問題を認識し改善するための支援(エンパワメント)を実施しています。

レレ地域で先生をしているシタ・ナガルコティさん(22歳)は学校で子ども達を教え、家庭や地域を訪問するうちに、親による息子と娘の扱いの差や、社会の性差別、流産した女性に対する差別などに疑問を持ちました。そして、このような差別的考えをなくしていくために地域の子供達と一緒に児童劇を準備し、公演しました。男女差別や女性の権利をテーマにしたこの劇を観た女性達の多くは共感し、自分の問題として捉え、観ながら泣いている人もいました。

2011 ケニア活動報告

ジャンボ(こんにちは!)

ケニアは、東アフリカに位置する共和国です。壮大な草原に多くの野生動物が生息し、サファリを楽しめる国立公園や国立保護区が観光客を魅了します。一方で国民の20%が1日当たり1.25ドル未満で暮らしているなど、深刻な貧困問題を抱えています。

2011年、グッドネーバース・ケニア(GNK)には様々なことがありました。大変な時もありましたが、励まし合いながら皆様からの支援に支えられた一年をおくり、いくつかの成果を上げることができました。メグアラ地域ではマイクロクレジット(貧困層向けの小規模無担保融資)をきっかけに農業を始め、狩りと牧畜で暮らすマサイ族が暮らしている食糧不足の地域に食糧を届けることができました。

また地域住民の自主性が高まり、活動への参加も活発になって、元々グッドネーバースが運営していた保健所を地域住民が運営し始めました。これは今まで支援に頼っていた地域社会が一歩ずつ自立してきているという意味で、この一年間のGNKの活動において最も意義ある成果の一つです。

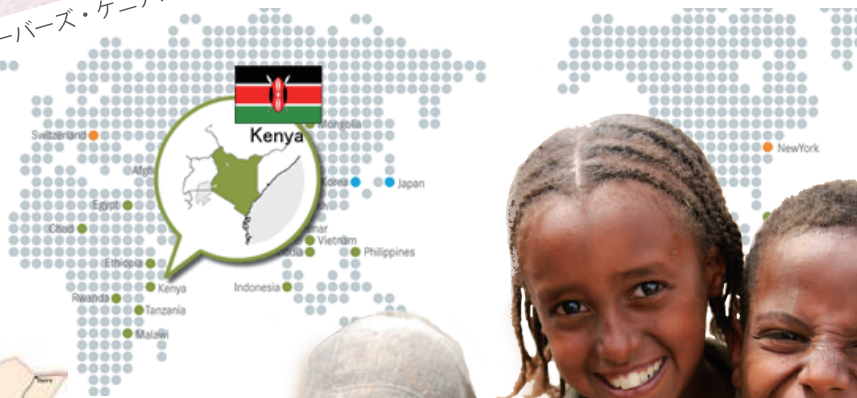
皆様の継続的なご関心とケニア現地職員の情熱、そして地域社会との協力により、2012年にはより成長することを期待しています。

アサンテ サーナ(ありがとうございます!)

グッドネーバース・ケニア
事務局長 パク・ヨンウォン



グッドネーバース・ケニアスタッフ一同



活動地域



ケニアの子ども



教育支援

グッドネーバーズではメグアラ地域において、教科書や授業料の支援のほか、課外授業の支援も行っています。グッドネーバーズはケニアの初等教育の国家試験用の教科書をウィニ・ヴィテズガワちゃん(15歳)が通っている学校に支援しました。試験でウィニちゃんは500問中362問を正解し、彼女のクラスも平均が303.5点という良い成績でした。ウィニちゃんは卒業後は優秀な中学校に進学する予定です。



医療支援

マリアカニ小学校に通っているエイズ・カシクワちゃん(12歳)は、劣悪な衛生環境と汚染された水による感染症が原因で指に腫れものが出て次第に大きくなり、授業にも集中できず字も書けないほどひどくなりました。

グッドネーバーズは彼女が治療を受けられるように支援し、治療を受けたエイズちゃんは元気になって、学校の勉強にも集中できるようになりました。また二次感染を避けるため、手術した箇所を清潔にするなどの衛生教育をエイズちゃんと家族に行いました。



収入向上支援

ムクル地域に住んでいるネルソン・マウエウさんは、グッドネーバーズの収入向上支援事業であるマイクロクレジットを通じて、店の経営難を乗り越えることができました。彼は食料品などを売る小さな店を営んでいましたが、資金不足で経営が難しく、3人の子どもの教育費と生活費の負担は大きいものでした。しかし彼は、マイクロクレジットのローンによりビジネスを拡張し、経営を軌道に乗せることができました。今は子ども達の食糧を買って、学校に通わせるための貯金もできるようになりました。



保健衛生支援

2011年は、ムクル地域のマコンゲニ小学校を対象にさまざまな保健衛生支援を実施しました。まず、屋根を修理して雨季に雨水を溜めることができるようにしました。さらに学校のトイレは劣悪な衛生状態で、420人の生徒に対しトイレがひとつしかなかったのですが、男の子と女の子のトイレが別々になりました。校長先生からは「女の子も安心して学校に来れるようになりました」と感謝の言葉をいただきました。

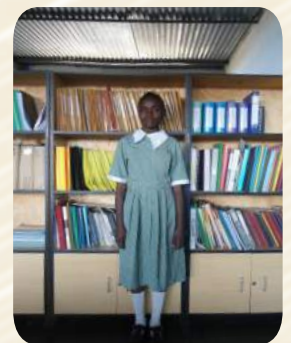
◆CHILD STORY◆ アビゲイールちゃん

私はアビゲイール・ムスイミです。現在、ダンドラ小学校8年生*です。私たちはグッドネーバーズから「子どもの権利」に関して多くのことを学びました。その中でも児童労働は現在も多くの子どもに影響しているので特に重要だと思います。

私は児童労働の被害者でした。しかし今は子どもに権利があることを知っているので児童労働に対して“NO”と言える勇気があります。今も多くの子どもが家で児童労働をさせられ虐待されていますが、子どもたちは何も言えません。特に田舎の子ども達は自分の権利を知る必要があります。

私は友達に、彼らの親や血のつながらない親、親戚から受ける児童労働、男女差別、強姦など様々な虐待に“NO”と言うようにように呼びかけています。このようなことをする人はそれが悪くて禁じられているということを知らなければなりません。世界中の子どもたちの権利はどのような場合でも否定されてはいけないと思います。

※ケニアの教育制度は初等教育8年、高等教育4年、大学4年です。



子どもの権利を勉強するアビゲイールちゃん

2011 エチオピア活動報告

エンデミナチウ！デーナチウ？（こんにちは！お元気ですか？）

いつもエチオピアへのご支援ありがとうございます。エチオピアはアフリカ北東部の内陸国で、アフリカで4番目に大きい国です。コーヒーなどの農業が輸出の80%を占める主要産業ですが、干ばつや農業の機械化の遅れなどにより生産性は低く、世界でも最も貧しい国の一つです。グッドネーバース・エチオピア (GNE) は1997年からスラム街や劣悪な環境の下に暮らす人々のために活動しています。

皆様の温かいご支援により、2011年も子どもたちや地域の人々の生活の改善に向け前進することが出来ました。ヘトサ地域では収入向上プログラムを拡大し、貧困に苦しむ人々の収入を増やすことに成功しました。シダマ地域では教育支援に注力し、学校の補修工事や放課後授業を始めました。また干ばつの被害を受けたバレ県ベルベレ郡で緊急支援を行い食糧を配布しました。

2012年にはヘトサ地域で子どもセンターの建設が始まり、リデタ地域ではメルカム幼稚園の保育と教育プログラムの改善に努めます。

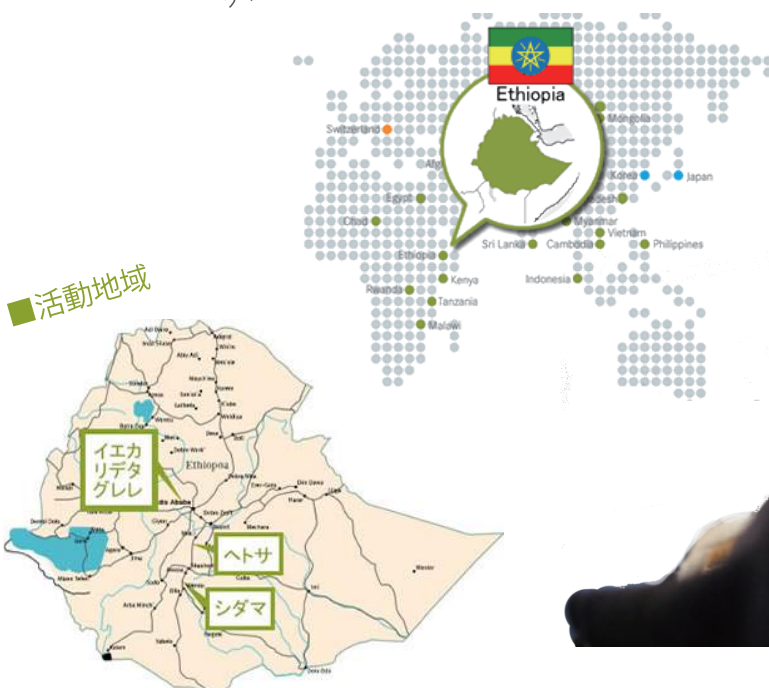
このような2011年の成果も、2012年に待ち受けている楽しい計画も、皆様のご支援とご関心なしでは達成できません。改めて感謝申し上げます。

エナメセギナレン！デーナフヌ（ありがとうございます。さようなら）

グッドネーバース・エチオピア
事務局長 チョン・クムナ



グッドネーバース・エチオピアスタッフ一同



楽しく勉強しているエチオピアの子ども



学校補修工事

シダマ地域では、150 人の子どもを支援しています。この地域の学校は従来、農村コミュニティによって建てられた教室で教育環境は劣悪でした。学校の屋根はビニールシートで覆われ、壁には大きな穴が空いていて、寒さ、風、埃をしのげず、授業を行うのは困難でした。また雨が降ると、教室から水を掃き出す作業をしなければなりませんでした。そこでグッドネーバースは 2011 年 8 月から、地域の 2 校に対して補修工事を行い、ペンキも塗りかえました。これにより教育環境が改善され、この事業は地元ラジオ番組でも大きくとりあげられました。



子どもの手術支援

ベレケット・ベルコちゃん (12 歳) は、シダマ地域に住んでいる小学校 4 年生の女の子です。彼女の父親は亡くなり母親とは今は一緒に暮らしておらず、祖父母と暮らしています。彼女の口の中には腫瘍があり、食べ物も上手く食べることができず痛みを苦しんでました。グッドネーバースが実施した健康診断の結果、口の中で過剰な皮膚細胞が増殖していることが分かりました。彼女は手術を受け、現在は幸せな日々を過ごしています。彼女だけではなく、家族や友人たちもベレケットちゃんが治療を受けられた事を嬉しく思っています。ベレケットちゃんは「グッドネーバースのおかげで人生が変わりました。今では何の不安もなく勉強ができます。」と嬉しそうでした。



職業訓練支援

ブルハネ・アセファさんはグッドネーバースが支援している子どもの母親で、リデタ地域にある政府の賃貸住宅に夫と 3 人の子どもと暮らしています。以前この家族には十分な収入がなく、もっと悪い生活環境で暮らしていました。

その頃、グッドネーバースで服の縫製の研修を受けないかと地区の役人から誘いを受け、彼女は仕立ての講義と実践の研修に 6 ヶ月間、積極的に参加しました。研修終了後は、彼女の努力と実力が認められ、グッドネーバースのマイクロクレジット事業によりミシンをローンで購入することができました。彼女は服を作って販売し、すでにローンの一部を返済しました。今では仕立て店のオーナーをしており、家族の生活環境も改善されました。



収入向上支援

ヘトサ地域に住んでいるアユシエク・ケディルさんはグッドネーバースの収入向上支援事業の一環であるマイクロファイナンスの支援を受け、自らの力で貧困を脱することに成功しました。

16 歳で結婚したアユシエクさんは 5 人の子どもを産みましたが、日雇い労働者の夫の収入は約 1.14 ドル (95 円) と少なく、生活に困っていました。2010 年に初めて本事業の受益者になったアユシエクさんは最初 54 ドル (4,460 円) を借り受け、子羊 3 頭と飼料を購入しました。3 頭を繁殖させて育った羊を売り、そのお金で更に子羊 3 頭を購入する方法でお金を増やしました。そのお金で土地を借りて玉葱を植え、市場で売って収益を上げ、ついには地域の学校の近くに小さな日用品店を開店するに至りました。今では家族も生活に困ることなく、子ども達も学校に通っています。

アユシエクさんの事例は地域全体にとっても良いお手本となっています。もうアユシエクさんの家族にはグッドネーバースによる支援は必要なくなり、実際支援は終了しました。

2011 チャド活動報告

アッサラーム アライクム! (こんにちは!)

チャドを支援し、チャドの子どもたちを愛して下さる皆様、いつもありがとうございます。
 チャド共和国は、1960年にフランスから独立したアフリカ中北部に位置する国です。1960年代中期以降、イスラム教を信じる北部の人々と伝統的なアフリカ宗教やキリスト教を信じる南部の人々の間で内戦が繰り返されてきました。このような内戦や紛争、食料資源の不足もありチャドは最貧国の一つになっています。

グッドネーブーズ・チャドは2007年の設立後、子どもの教育支援を中心とした地域開発支援を実施しています。皆様のご支援により、2011年もチャドの地域社会と子どもたちに多くの変化が生まれました。5,000人の子どもたちに教育、医療、保健衛生サービスを提供し、地域のニーズにより保健所、教室、トイレ、井戸の他、収入向上支援のための養殖場、製粉所を建てるなど、住民達の基本的な生活環境を支援してまいりました。また278人のボランティアと254人の地域開発委員会のメンバーの協力により、地域や子どもの問題をより早く正確に発見し、解決することが出来ました。

これからも引き続き、ご関心とご支援をお願いします。ありがとうございます。

マアッサラーム(さようなら)



グッドネーブーズ・チャドスタッフ/ボランティア一同

グッドネーブーズ・チャド
 事務局長 パク・クンソン

活動地域



給食残さず食べたよ!



製粉所の設置

チャドのアムナバク地域には 2011 年 12 月に共用の製粉所ができました。この地域の住民はほとんどが農家で、6 月から 10 月の雨季に穀物を収穫します。これまでこの地域には製粉所がなかったため、製粉するために市内まで行かなくてはならず、1 年間の食糧を準備するのが大変でした。この地域には車を持っている人がなく、バイクが数台あるのみです。それで穀物を市内まで運び、製粉して戻ってくることはとても大変でお金もかかりました。その後、グッドネーバースがこの地域に製粉所を建て、村人はお金と時間を節約できるようになりました。現在この製粉所は住民により管理され、市内の製粉所より安く使えるようにしています。この製粉所の利益は地域のための他のプログラムに使うこととなります。



地域ボランティア

モトシア・マルセルさん (30 歳) は環境科学と生物多様性の専門家で、現在カルウェイ地域開発プロジェクト委員会の委員長です。実は彼はこの地域の初めてのボランティアで現在も精力的に活動する、他のボランティアの原動力のような存在です。モトシアさんはミーティングを主催し、子どもの教育支援などの活動を計画するだけでなく報告書まで作成してくれます。彼は、「私の目的はコミュニティの人々の生活環境の改善を手伝い、子ども達が教育を受けられるようにすることです。一人でできないことは世界にはいくらでもある。だから、一緒に頑張ろう」と語ってくれました。



井戸の設置

グッドネーバース・チャドはワーリア地域にポンプ式の井戸を設置しました。この地域には昔から井戸があったものの、その水の色は黒く、村人もそれが良くないということは知っていましたが、他に仕方ありませんでした。川から水を汲むこともあります。片道 1 時間、帰りは水を運ぶのでそれ以上の時間がかかりました。

小学生のアダマ君 (9 歳) は水運び、薪集め、妹や弟の世話などの家事をしていました。以前は水を汲んで戻ってくると暗くなっていて、勉強も遊ぶこともできませんでした。しかし、新しい井戸が出来てからバケツを持って重い水を汲みに行かなくてもよくなり、勉強をする時間ができました。また、以前は下痢気味でしたが、それも治りました。

◆CHILD STORY◆ アブドラマン君 9 歳

2011 年にヨナススクール※に入学したアブドラマン・ゴウドザ君 (9 歳) は、小さい頃に罹った病気のため、聞く事も話す事もできません。しかし今は学校で文字を習い、字を書くことができるようになったので、簡単な言葉を書いて他の人とコミュニケーションすることができるようになりました。アブドラマン君は「今、ぼくが知ってる単語は少ないけど、もっとたくさん覚えて、考えてることを早く人に伝えるようになりたい」と教えてくれました。

※ヨナススクール

ファシャアテレ地域にはグッドネーバースの広報大使であった故パク・ヨンハさんが建て始め、2010 年 9 月に開校した「ヨナススクール」があります。ヨナススクールはこの地域の子どもたちにとって唯一の小学校で、みんなここで楽しく勉強しています。ヨナススクールは 2011 年 9 月に 1 周年を迎え、子ども達の栄養改善プロジェクトが始まりました。栄養価の高いミルクを子ども達に提供するため、20 頭の牛とヤギ 10 頭の飼育を開始した他、学校の近くにバナナ園を作りました。収穫したバナナはもちろん、子ども達に提供されます。教室には新しい机と椅子が入りましたが、教室に対して生徒の数が多く後ろの方まで生徒が一杯です。



アブドラマン君



ヨナススクールの教室

2011 東アフリカ干ばつ緊急支援

活動期間：2011年8月1日～2012年1月31日

支援内容：食糧配布 対象者：3,400人(内5歳以下の子ども及び妊婦1,190人)

2011年、ソマリア・エチオピア・ケニアなどアフリカ東部の「アフリカの角」と呼ばれる地域は、過去60年で最悪の干ばつに見舞われました。飢饉が深刻化していたソマリア南部では1日最大2,500人が餓死したとされ、1日あたり約1,300人の難民が隣国ケニアに、数百人がエチオピアに逃れ続けましたが、受け入れ国の食糧事情も悪化し、多くの人々が食糧支援を必要としていました。

グッドネーブーズ・ジャパン (GNJP) のスタッフは、オロミア州バレ県ベルベレ郡(首都アディスアベバより南へ約550km)にて、3,400人を対象に、2カ月分の食糧支援事業を行いました。配布した食糧(1カ月分1人当たり)は、コーン15kg・食用油0.45L・豆1.5kg・CSBとよばれるトウモロコシと大豆の混合粉(5歳児以下の子どもと妊婦対象)4.5kgです。GNJPは現地エチオピアのマーケットをいくつも巡り良質な食糧の調達に努め、輸送行程をチェックしました。配布場所には、最も被害の大きかった11地域から連日大勢の人々が猛暑の中訪れ、中には片道8時間かけて歩いてきた人もいました。

また、食糧配布対象の町の被害状況を把握すべく、子どものいる世帯をいくつか訪問したところ、食糧不足によって子どもたちの栄養失調が大変深刻化していることがわかりました。現地を訪問した原スタッフは、衰弱しミルクすら吐いてしまう子どもを見て、食糧支援のみでは解決できない現状を実感しました。十分な食料の確保は非常に重要ですが、同時に医療・保健衛生の改善による生活環境の向上といった、複合的人道支援が必要です。



【食糧配布の様子】



【栄養失調の5歳の女の子】



2011 フィリピン洪水緊急支援

活動期間：2011年12月23日～2012年1月31日

支援内容：衛生キット配布 対象者：2,200世帯(約11,000人)

2011年12月16日から17日にかけてフィリピン南部を襲った台風21号(Washi)により、鉄砲水や土砂崩れ、洪水などが相次ぎ、フィリピン災害対策当局によると死者は1,200人以上、28,000戸以上の住宅が全壊、または一部損壊しました。被災者は約70万人で、7万人近くが避難所に身を寄せ、洪水による衛生面の悪化や伝染病、農家の被害による食料不足等が懸念されていました。

グッドネーブーズは12月23日、マニラ市にあるグッドネーブーズ・フィリピンから調査スタッフを派遣し、被害状況を調査した後、ボランティアの協力により、最も被害の大きかったミンダナオ島のカガヤン・デオロ市、イリガン市周辺にて、避難所で生活していた2,200世帯(約11,000人)に、歯磨き粉、歯ブラシ、石鹸などの衛生キットを配布しました。



【倒壊した民家】



【緊急支援チーム】

2011 ベトナム洪水緊急支援

活動期間：2011年11月29日～12月27日

支援内容：食糧・蚊帳・毛布の配布 対象者：991世帯(4,786人)

文房具の配布 対象者：子ども3,157人

東南アジアのベトナムでは、2011年7月以降から平年を大幅に上回る大雨・台風・暴風雨などによる洪水被害が続き、国連によるとメコン川の増水により南ベトナムでは78人の死者が出て、多くの子どもたちが増水したメコン川に流されて亡くなりました。

グッドネーバース・ジャパン (GNJP) は、25,000戸が被害を受けたヴィンロン省ビンタン県にて緊急支援を実施するため、11月末にスタッフ2名を派遣しました。洪水で浸水被害を受け、衣類や漁具などを失った貧困家庭の人は、今回の洪水により、収入の大半が途絶えてしまった人もいます。GNJPは、同県の中でも特に被害の大きかった地域で米や調味料、毛布といった緊急支援物資を配布、さらに10カ所の学校の子どもにもノートやペンを配布しました。



【被災地の様子】



【文房具を受け取ってニコリ】

2010 チリ大地震緊急支援

活動期間：2010年3月3日～継続中

対象内容：食糧、生活必需品配布 対象者：タルカワノ市2,000世帯(約10,000人)

仮設店舗建設 対象者：コンスティトゥション市100世帯

仮設教室 対象者：ウアラニエ市 生徒40人弱

小学校修理 対象者：コンスティトゥション市 生徒1,000人以上

図書館2カ所とチャイルドセンター建設 対象者：ウアラニエ市・コンスティトゥション市の子ども1,400人



【新しい図書館の前で】



【地元の新聞に掲載】

2010年2月27日に発生したチリ地震(M8.8)では、800人以上が死亡、200万人が被災し、グッドネーバースではこれまでに食糧や生活必需品の配布、仮設教室建設など、様々な緊急支援をしてきました。さらに2011年、グッドネーバース・ジャパンはチリ大地震兵庫県義援金募集委員会様を通じて、兵庫県の皆様から12,283,000円をご寄付いただき、図書館二棟とチャイルドセンター建設、小学校の改修工事を行う、「チリ大地震兵庫県義援金プロジェクト」を実施しました。

8月に行われたMOU(覚書)締結の様子はチリの現地メディアでも報道され、9月に工事が始まりました。そして2012年3月20日、チリのウアラニエ市とコンスティトゥション市で図書館とチャイルドセンターが完成し、地域の子ども約1,400人に安全でより良い教育環境を提供できるようになりました。

チリは近年経済成長を遂げている一方まだ国内の格差が大きく、今回の事業を実施したウアラニエ市にも教育や医療の環境が整っていない地域が多くあります。

グッドネーバースは復興支援事業終了後も、同地域で持続可能な地域開発を進めて行く予定です。

広報・啓発活動

報告会・セミナー・講演

THINK AGAIN vol.9 ～ベジから始まる未来へのループ～

日程： 2011年4月29日 場所：渋谷レンタルスペースさくら

主催： THINK AGAIN 実行委員会

登壇者：本城史絵（グッドネーバース・ジャパン (GNJP)）

内容： 菜食を通して、環境や飢餓、食料、動物の権利の問題などについて、参加者と一緒に考えていくイベント“THINK AGAIN”で、児童労働の問題や東日本大震災の緊急支援について話しました。



東日本大震災復興支援活動報告会（第一回）

日程： 2011年5月26日 場所：JICA 地球ひろば

報告者：芳賀朝子・本城史絵（GNJP）

内容： 岩手県釜石市、大槌町において実施する東日本大震災の緊急支援活動状況と今後のプロジェクト、参加可能なボランティアについて報告しました。



【活動紹介パネル展示】「美しき青年パク・ヨンハの最後の願い」

日程： 2011年6月25日～7月8日 場所：シネマート六本木

主催： 株式会社エスピーオー

内容： GNJP の広報大使であった、故パク・ヨンハさん主演の映画『美しい青年パク・ヨンハの最後の願い』と『作戦』が上映される劇場のロビーにて、故パク・ヨンハさんが募金を呼びかけたことによりチャド共和国に建設されたヨナスchoolの活動紹介パネルを展示しました。



【シンポジウム】震災復興支援におけるNPO/NGOと企業の協働

日程： 2011年7月6日 場所：JICA 地球ひろば

共催：（株）クレアン/GNJP

後援：（特非）国際協力NGOセンター（JANIC）

内容/ 第一部：連携事例報告「お母さんと子どものフリーバザー」

当壇者：<報告者>芳賀朝子（グッドネーバース・ジャパン）

第二部：パネルディスカッション「コラボ誕生 Before-After 体験談」

<パネリスト>魚田夏紀氏（全日本空輸株式会社）/岸和田直美氏（旭硝子株式会社）/藤岡恵美子氏（国際協力NGOセンター）/芳賀朝子（GNJP）

<ファシリテーター>山口智彦氏（株式会社クレアン）

第三部：ワークショップ「三人寄れば文殊の知恵 - 対話から生まれる、拡がる可能性」

<ファシリテーター>芳賀朝子（GNJP）



エチオピア緊急支援報告会

日程： 2011年12月14日 場所：JICA 地球ひろば

報告者：小泉智・原理栄子（GNJP）

内容： 過去60年で最悪といわれる東アフリカの深刻な干ばつに伴い、10月にエチオピアにて食料支援事業を実施しました。活動報告会では干ばつの被害状況や、支援内容、現地で起きた問題と解決に至るまでの話等をしました。



イベント・ネットワーク

「世界の子どもに教育を」キャンペーン 2011 世界一大きな授業 - 女の子と女性の教育 -

日程： 2011年4月18日～24日 場所：全国各地

主催： 教育協力NGOネットワーク(JNNE)

内容： JNNEでは、世界中の子どもが教育を受けられることを願う「教育のためのグローバル・キャンペーン」として、イベント「世界一大きな授業」を運営しています。これは日本の子どもたちが、「世界のだれもが教育を受けられるように、皆で取り組むこと」を考える機会とするもので、2011年は全国各地の学校270校35,371人が参加しました。また、政策提言活動として国会議員のための「世界一大きな授業」も実施しました。GNJPは2010年からキャンペーンの実行委員会に参加しています。

児童労働反対世界デー・キャンペーン 2011

日程： 2011年5月5日～6月30日

場所： 全国各地

主催： 児童労働ネットワーク(CL-Net)

内容： GNJPが運営委員会に参加しているCL-Netでは、6月12日の児童労働反対世界デーの前後に、児童労働の撤廃を目指すキャンペーンを実施しています。6月12日に文京学院大学で開催されたキャンペーンのメインイベント「児童労働反対世界デー 映画上映会&シンポジウム ファッションで世界を変える」にはファッションモデルの富永愛さんをゲスト迎え、329名が参加しました。また、毎年実施している「世界から児童労働をなくそう！署名」には、212,346筆もの署名が集まりました。



(c) CL-Net

【ブース出展】 バングラデシュフェスティバル 2011

日程： 2011年6月18・19日 場所：代々木公園イベント広場

内容： バングラデシュ地域開発および東日本大震災の活動紹介、物品販売、募金活動

【ブース出展】 グローバルフェスタ 2011

日程： 2011年10月6日 場所：日比谷公園

内容： 途上国で実施する地域開発や東日本大震災の活動紹介、物品販売、岩手県大槌町河川清掃ボランティア募集



【ブース出展】 第7回 NPO まつり 2011 ～震災復興 NPO にできること～

日程： 2011年10月16日(15日は大雨のため中止) 場所：代々木公園イベント広場

内容： 活動紹介、物品販売、チャリティフリーマーケット

【ブース出展】 横浜国際フェスタ 2011

日程： 2011年10月23日(22日は大雨注意報のため中止) 場所：横浜市象の鼻パーク

内容： 東日本大震災活動パネル展示、活動紹介、物品販売、子どもボランティア受入れ

子どもサポーター交流会

日程： 2011年10月30日 場所：グッドネーバーズ・ジャパン事務所(文京区)

内容： 日頃からご支援いただいている子どもサポーター様を事務所にご招待し、サポーター同士の交流ができる場を設けました。インドネシアの支援地域の最新映像上映の後は、サポートする子どもに手紙を書きました。



【ブース出展】 アフリカンフェスタ 2011

日程： 2011年11月12日・13日 場所：横浜市山下公園

内容： アフリカ地域開発の活動紹介、エチオピア干ばつ緊急支援活動紹介、物品販売

会計報告

2011年度収支計算書(2011年1月1日～12月31日)

収入の部

(単位:円)

I 経常収入の部		
受託事業収入		3,051,183
補助金等収入		114,516,401
グッドネーパーズ本部補助金収入	9,485,655	
助成金収入	105,030,746	
寄付金収入		121,880,530
その他収入		15,561
利息収入	15,561	
	経常収入合計	239,463,675
前期繰越金		19,743,259
	収入合計	259,206,934

支出の部

II 経常支出の部		
1 事業費		
(1)農業開発事業費	2,372,868	
(2)児童病院支援事業費	539,288	
(3)孤児院支援事業費	2,696,441	
(4)教育支援事業費	3,127,871	
(5)その他目的を達成するために必要な事業費		
(1)東日本大震災復興支援事業	120,318,563	
(2)バングラデシュ保健衛生事業	1,835,100	
(3)チリ地震緊急支援事業	6,882,510	
(4)東アフリカ干ばつ緊急支援事業	8,401,263	
(5)ベトナム洪水緊急支援事業	4,234,404	
(6)その他	34,286,639	
	事業費合計	184,694,947
2 管理費		6,796,337
	経常支出合計	191,491,284
III その他資金支出の部		
1 固定資産取得支出		194,850
2 その他資金支出		489,277
助成金返還金	488,401	
為替差損	876	
	その他の資金支出合計	684,127
次期繰越金		67,031,523
	支出合計	259,206,934

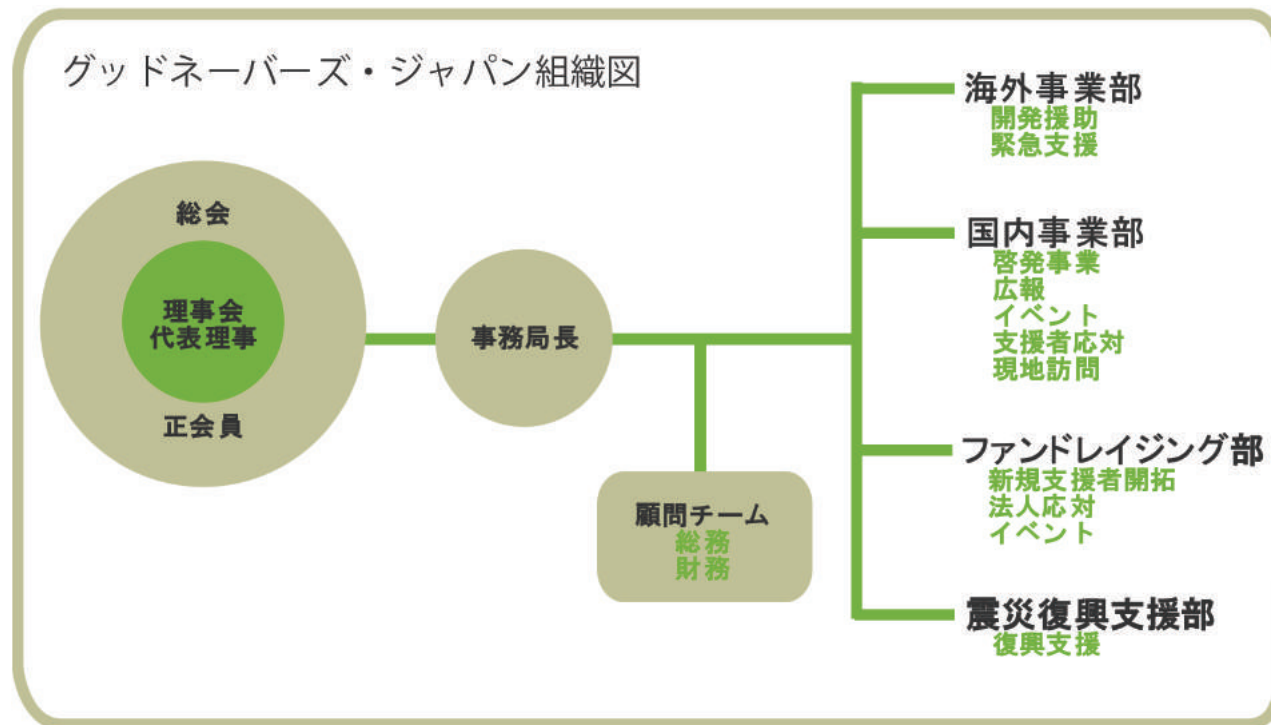
当期収支差額 0

貸借対照表(2011年12月31日現在)

(単位:円)

I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金預金	60,920,647		未払金	12,244,043	
未収金	17,245,203		流動負債合計		12,244,043
貯蔵品	8,261		2 固定負債		
未収利息	1,455		固定負債合計		0
仮払金	1,100,000		負債合計		12,244,043
流動資産合計		79,275,566	III 正味財産の部		
2 固定資産			前期繰越正味財産		20,243,259
保証金	530,000		当期正味財産増減		47,474,872
什器備品	156,608		正味財産合計		67,718,131
固定資産合計		686,608	負債及び正味財産合計		79,962,174
資産合計		79,962,174			

組織概要・役員一覧



理事・顧問

代表理事： 福井 玲（東京大学准教授）
 副代表理事： 窪 誠（大阪産業大学教授）
 理事： 韓 福相（大阪産業大学教授）
 小林 貴（株式会社奈良屋代表取締役）
 李 一夏（グッドネーバース・インターナショナル会長）
 小泉 智（グッドネーバース・ジャパン事務局長）
 監事： 李 健泳（新潟大学教授）
 法務顧問： 金子 憲康（弁護士）
 財務顧問： 戎井 重樹（公認会計士）
 労務顧問： 浅井 浩次（特定社会保険労務士）

加盟団体・参加ネットワーク

JANIC（国際協力 NGO センター）
 JPF（ジャパン・プラットフォーム）
 CL-Net（児童労働ネットワーク）
 なんとかしなきゃプロジェクト
 JNNE 教育協力 NGO ネットワーク
 日本ファンドレイジング協会
 「動く→動かす」（GCAP Japan）
 NGO-JICA 協議会
 CSR 推進 NGO ネットワーク
 子どもの権利条約 NGO グループ / 日本
 「ESD の 10 年・世界の祭典」推進フォーラム
 NGO- 労働組合国際協働フォーラム

世界中の
子ども達に
笑顔を



特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目17-7 丸尾駐車場ビル2階

TEL : 03-5848-4633 FAX : 03-5848-4425 E-MAIL : admin@gnjp.org

HP : <http://www.gnjp.org> Twitter : @GNJapan Facebook : [facebook.com/gnjapan](https://www.facebook.com/gnjapan)